

「341 就花枝、應製」

「遇境芳情無晝夜、將含鷄舌伴詩仙

「373 賦葉落庭柯空」

「遇境幽人意、乘閑卒歲冬

▼ 『菅家後集』

「487 東山小雪」

客魂易消滅、遇境獨依然

「504 官舍幽趣」

鄣中不得避諠譁、遇境幽閑自足誇

【考察】

いづれも、「その時その時の状況に際しての心境・心情」を表すときに用いている。

(野田 了介)

484 敘意二百韻 (13)

〜 97句から104句 〉

本文

平仄

97 老君垂迹*淡

98 莊叟處身偏

● ○ ○ ● ● ●

○ ● ● ○ ○ ○